

東芝テックOB会だより

第17号 2009年12月15日

第15回東芝テックOB会総会開催！



去る10月23日(金)、第15回東芝テックOB会総会は秋晴れのなか、三島事業所伊豆体育館で開催されました。

今年はちょうどOB会が設立されて以来15年目という節目に当たりますので、ささやかではありますが特別行事を実施しました。

総会は、寺尾幹事の司会で始まり、まず会長の開催挨拶、来賓鈴木社長のご祝詞の後、議事として会計監査報告及び役員改選が提案され、承認されました。引続き白寿、米寿、喜寿を迎えられた方々に対し、盛大な拍手の中記念品贈呈が行われました。



懇親会は静岡地区を代表して高橋保吉さんによる乾杯の音頭で始まり、久しぶりの再会に和やかな交流に加え、特別行事として開かれた福引や創作展の見学、農産物の購入等賑やかな一時を楽しみました。

最後に鈴木副会長による中締めと来年東京での再会を約束して無事終了しました。



会長挨拶 要旨

会長 杉之内 義正



今日は、秋晴れのなか第15回OB会総会に多数ご出席賜わり誠に有難うございます。久し振りにお元気な皆様にお会いすることが出来ることに幹事一同感謝いたしております。

また、会社よりご多忙のなか、鈴木社長を始め役員各位のご参加を賜わり厚くお礼申し上げます。

皆様ご承知の通り当OB会は平成7年に25会を解消し新たに設立されたものであり、今年で15年目(旧25会を加えると44年目)の節目を迎えることが出来ました。これも長年に亘り会社の物心両面にわたる積極的なご支援の賜物であり、OB会員を代表してあらためて深く感謝申し上げる次第です。

さて、平成19年12月より活動を開始致しました第7期幹事会は、本日の総会をもちまして2年間の任期を終了致します。この間の具体的活動につきましては「第7期活動報告要約」として本日皆様にお渡ししました通りです。成果と致しましては甚だ不本意な結果であります但し御了解いただきますようお願い致します。尚、この際特に申し上げたいことは、在籍人員が減少している中で、この所定年退職者の加入率が低く新会員を確保することが非常に厳しい環境にあることが現状です。その原因は複数ありますが、いずれにせよ今後新会員の確保については、会員皆様の積極的なご支援を特にお願したいと存じます。

次に先ほど申し上げた通り、今年は役員改選期に当たりますので、のちほど新しい第8期役員候補を提案致しますので、是非ご賛同賜わりますようお願い致します。

申し遅れましたが、今年は残念ながら15名の会員が亡くなりました。誠に寂しい限りです。あ

らためて皆さんと共に慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

次にお祝いの件ですが、今年は38名の方が白寿・米寿・喜寿を迎えられました。本当におめでとうございます。今後とも益々ご健康に留意され毎年の総会には是非お出かけくださいます様心から願っております。後ほどお祝いを差し上げたいと思います。

次にすでにご案内の通り今年は節目の年の記念として、ささやかなものですが会員皆様のご協力により特別行事を企画致しました。

【福引大会】【恒例の第3回創作展】【OB手作りの農産物販売】を実施します。どうぞ皆さんお楽しみ下さい。

さて、本日は久し振りの再会です。時間の許す限りご歓談賜わりますようお願いすると共にまた来年は東京で元気に再会出来ることを心から願っています。

最後になりますが、会員各位の益々のご健勝と会社の繁栄を祈念すると共に、本日の会場準備にあたりOB会事務局並びに三島事業所各位に対し心より感謝申し上げ、簡単ですが総会開催の挨拶と致します。有難うございました。

来賓祝詞 要旨

取締役社長 鈴木 護



本日は、お招きいただきまして誠に有難うございます。お元気そうな皆さんにお目にかかることができ、大変嬉しく思います。今年は節目の15回総会開催となり益々のご繁栄をお祝い申し上げます。加えまして、喜寿・米寿・白寿を迎えられた皆様に対しても、心からお祝いを申し上げます。新型インフルエンザの流行が大変心配な世間状況ですが、今後とも一層健康にご留意され、お元気で過ごされますようご祈念申し上げます。

【業績・株価関係】

リーマンショック以降の世界の大不況は、円高と共に、当社業績に大きな影響を与えています。売上の伸びが期待できない中で、いかにして利益を出すか。2009年度は当初からこの命題に取り組んでおり、徹底した固定費削減を行って、強靱な利益体質を構築するべく全社一丸となっております。景気の底打ち観が言われる一方で、二番底の懸念も捨てきれませんし、新政権の政策が景気にどう影響するか、不安要素がまだまだあります。

また、株価を見てみますと、昨年東京で皆さんにお会いした10月22日には329円でしたが、その後2月18日に208円の底値をつけ、現在、400円前後まで戻しています。しかし、このレベルでは、まだ“株価純資産倍率”が1を割っておりまして、株主の皆さんからの当社の評価がどのようなものなのか、大変心配しています。ちなみに、2年前のOB会総会は11月28日でしたが、この日の終値は719円でした。その数日後に800円をつけておりますので、この2年間の動きはまさに“激動”そのものと言えると思います。

このように、外部環境が激しく、早く変化していく中で、私どもは、少しも留まっているわけにはいきません。安定した財務体質を構築しながら、この不況を脱した時の成長戦略をグローバルに展開できるよう、全社の智慧を集結させているところでございます。OBの皆さんも過去には何度か苦しい経験乗り越えてこられました。お陰さまで、来年2月には創立60周年を迎えます。皆様への感謝の気持ちを忘れずに、更なるシナジーを創出して、次の飛躍に繋げて行きたいと考えております。

【2008年度POS国内販売台数シェア52%】

トピックスを幾つかお伝えしたいと思います。

先日2008年のPOSの国内販売台数シェアが公表されました。当社は52%で1位でございます。大手のリプレイスが集中した2006年に52%を記録した後、2007年は48%となりましたが、今回また52%という結果です。2位のNECは17%、3位の富士通が13%です。厳しい中ではありますが、主に食品スーパー等量販店への拡販に注力し、シェアNo.1の地位をキープいたしました。

【MFP中国シェアNo.1】

MFPはどうかと言いますと、当社MFPは90%

が海外市場での販売です。主な販売先は欧米ですが、実は中国でのシェアが9年連続でNo.1となっております。早い時期から中国市場に進出していて、例年18%前後のシェアをキープしています。

このような中で、今年6月、上海の西約130kmの無錫市にシステムソフトウェア開発センターを立ち上げました。中国は今後の成長が大いに期待できる市場です。特有の商習慣へのソリューション開発による差別化で、さらに競合他社に差を付けるべく設立した次第です。

【東芝 前田副社長】

ご承知のとおり、今年6月の株主総会で、東芝は佐々木新社長率いる体制に変わりましたが、この新体制の中で、前社長の前田さんが、副社長に就任していらっしゃいます。前田さんの担当分野は広範にわたっていますが、今のお立場からも、貴重なアドバイスをいただいております。

【終わりに】

周囲に展示されています作品を見るにつけ、ご趣味をお持ちの先輩方をうらやましく思う次第です。三島での開催では、毎回、作品展や野菜の販売が行われるとのことで、こうしたご趣味を大切にさせていただいて、今後もお披露いただければと思います。

最後になりますが、60才の還暦を迎えます当社が存続してきたのは、ここにいらっしゃるOBの皆さんのご苦勞の賜物です。

皆さんが築き上げてきた当社を、良い状態で次世代にバトンタッチできるよう、今後の経営にあたってまいります。

本会の発展と皆様方の益々のご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



《 総 会 資 料 平成21年10月19日現在 》

《会員の動向》

新会員 53名、逝去者及び退会者 40名（逝去者15名、退会者25名）
 総会員数 1,132名（内終身会員数47名）

《白寿のお祝（1名）M44生》

野村東一 様

《米寿のお祝（1名）T11生》

宮城 昭 様

《喜寿のお祝（36名）S8生》

青木和彦 様、荒川賢一 様、石井康雄 様、石原 清 様、井出昌利 様、伊原敬祐 様、五百澤禎晃 様、大川裕久 様、大多田道治 様、大野育作 様、岡田秀夫 様、片桐信治 様、加納将吉 様、川添成章 様、木村芳雄 様、小泉奈津子 様、西喜秀子 様、三枝 諭 様、櫻井正之 様、佐藤辰吉 様、冷水 勝 様、鈴木 修 様、鈴木 愨 様、竹川六男 様、谷本 満 様、長 実 様、遠木 武 様、原 嶺夫 様、林 讓 様、平川艶司 様、古沢清十郎 様、保坂昌成 様、水野伸宜 様、山口雅弘 様、山田時治 様、渡辺秋雄 様

《訃報（16名）》H21.11現在

相庭三郎 様（H20.2）、赤松 武 様（H21.2）、市川栄洋 様（H21.6）、伊藤順康 様（H21.6）、蠣崎賢治 様（H21.5）、杉山十四雄 様（H21.9）、杉山 進 様（H21.10）、鈴木五十男 様（H21.9）、武田濱吉 様（H21.3）、土屋幸男 様（H21.4）、鶴田昭義 様（H21.8）、宝来健三郎 様（H20.10）、細渕修史 様（H21.1）、松木成宏 様（H21.6）、水口 務 様（H20.11）、渡辺藤夫 様（H20.9）

《役員改選について》

会 長 杉之内義正
 副 会 長 鈴木成二
 幹 事 岩崎正宏、植木功夫、菊池好子、島崎準一郎、塚原 仁、寺尾 潔、友久保義昭、東 高司、藤田亀義、藤田秀明、松永秀隆、室伏好子、吉田昭太郎、渡辺照明
 会計監事 大嶋盛次、飛田 捷

《平成20年度会計報告》

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越金	3,310,144		
会費（年会費）	1,986,700	白寿・米寿・喜寿御祝	250,000
雑収入（預金利息等）	4,689	OB会だより・会員名簿	958,680
		HP運用費	138,600
		行事活動費	151,667
		香典及び供花代	183,000
		雑費（振込手数料等）	107,255
収入計	1,991,389	支出計	1,789,202
		次期繰越金（残高）	3,512,331

第7期活動報告要約 (H19/12～H21/10)

平成19年12月より活動を開始しました第7期常任幹事会は本日第15回総会をもって2年間の任期を終了致します。この間OB会員並びに会社関係者の暖かいご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、第7期がスタートするに当り取組むべき課題として、6項目を提示しました。以下項目別に2年間の活動要約をご報告致します。

1. 会員の獲得対策

(1) 未加入者に対する積極的なアプローチ

第1期対策として、H15 / 4～H19 / 11の間に、定年及び定年扱いで退職したOB会員入会有資格者を調査した所330名をリストアップすることが出来ました。この方々にOB会入会案内状を郵送した結果、H20 / 9現在17名の入会申請があり、その後も追加入会がありました。第2期の対策としてH15年以前に退職した方に対して調査し、入会案内状を送付するのを含め費用効果を勘案の上再検討したい。

(2) 支部活動の効果

三島支部は平成20年6月に設立、活動を開始致しましたが、設立に至る準備活動の中で三島地区に在住する未加入有資格者の調査を実施、139名をリストアップし入会案内及び設立総会への参加案内状を郵送しました。その結果、25名の加入を得ることが出来ました。この様に支部設立の機会を利用し積極的な未加入会員への働きかけが有効な手段の1つであると考えます。また本年5月は新たに駿東支部（御殿場市、清水町、長泉町、裾野市）が設立され、潜在有資格者の掘り起こしを展開した結果、42名中18名の新加入者がありました。

(3) 会則第3条（会員）の改正による会員の獲得対策

OB会設立当時に比較して、その後急激な事業環境の変化に伴ない、雇用形態が多様化した結果、現行会則では対応できないケースが発生していること、さらに当社の年齢別在籍人員から推測するに、今後大量の新加入は期待できない等、諸般の条件を勘案し、会員への加入条件を改正し新たな会員の獲得に努力する必要があるものと考えます。但し、会則改定によってどの程度会員が増加するかどうか予測は困難であり、ある程度時間的経過が必要であると思えます。従って改定案は本総会の報告事項とし、これから1年間会員の皆様に周知を図り次年度に改めて審議を決定したいと思えます。

OB会会則（第3条）改定案

改定理由

- ① OB会員の減少傾向に歯止めをかけるため、入会条件を拡大し会員増を図る。
- ② 東芝テックの今後の事業構造再編による関係会社以外への従業員移籍に対応する。

現 行	改定案
本会の会員は東芝テック株式会社（旧テック電子含む）に入社し、次の各号に該当する者を対象とする。 (1) 東芝テック(株)（旧テック電子含む）で定年（定年退職扱い含む）及び関係会社へ移籍し関係会社で定年（扱い含む）となり入会を希望する者。 (2) 上記の他、役員会が適当と認めた者。	本会の会員は東芝テック株式会社（旧テック電子含む）に入社し、次の各号の一に該当し、本会則に同意し入会を希望する者とする。 (1) 東芝テック(株)（旧テック電子含む）で定年（定年退職扱い含む）及び関係会社へ移籍し関係会社で定年（扱い含む）となった者。 (2) 東芝テック(株)（旧テック電子含む）で25年以上の勤続を有し、退職（懲戒解雇による退職を除く）または他社へ移籍した者。 (3) 上記の他、役員会が適当と認めた者。

《参考Ⅰ：月別会員の入会状況》

H20年度

	H19/11	12月	H20/1	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
加入者	1	4	2	3	2	1	4	2	25	12	3	5	64

H21年度

	H20/11	12月	H21/1	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
加入者	2	0	0	4	3	1	24	5	7	3	4	—	53

《参考Ⅱ：年度別会員の推移》

H21年10月現在

年度	新会員	逝去	退会／退会扱	会員数
H16	60	11	18	1,137
H17	68	24	46	1,135
H18	29	20	15	1,129
H19	32	19	44	1,098
H20	64	14	29	1,119
H21	53	15	25	1,132

2. 会員の地区活動拠点の確保

会社の日常業務に支障ない限り、三島及び大仁事業所内に支部活動の打合せ等に使用する場所を提供することについて、配慮する旨了解を得ました。

3. OBライフ支援プログラムの推進

昨年度の活動報告の中で述べたとおり、企業内における人材の流動化を図る為には、単に本人の自己啓発にだけ期待しても効果は発揮できない。在職中に労働市場に対応出来る経験、能力を計画的に付加させる実践的な教育訓練システムを確立する必要がある。この前提条件が解決出来ない限り、単に情報を発信しただけでは成果はない。従ってこの課題への取組みは当面中止する。

4. OB起業家支援体制の推進

当初の目標どおりOB会員の中から実際に企業家として努力しているOB会員を掘り起こし、「OB会だより」に事業内容の紹介を実施した。今後は紹介活動を継続すると共に会員相互のネットワーク作りと具体的に支援可能な対策を検討する。

5. 支部制の導入

昨年6月に三島支部が立ち上がり本年5月には第2回支部総会を開催致しました。（詳細はOB会だよりNo.16号参照）また本年5月には清水町、長泉町、裾野市、御殿場市の二市二町に在住するOB会員をもって駿東支部の設立総会が開催されました。（詳細はOB会だよりNo.16号参照）

いずれの支部も支部設立の準備、未加入者の調査、入会案内状の郵送、総会の準備と、新たな誕生に向けて支部長、支部幹事各位のご苦勞など、大変な負担をかけることになりました。

この様な状況の中で、今後も継続的な活動が維持できるのか不安な気持ちもあります。ただ支部制導入の目的である地域会員相互の積極的な交流活動を通じ、OB会活動全体の活性化を図るための手段として避けて通れない重要な対策であり、支部長、幹事各位の犠牲的精神に期待する以外に方法はないと思います。

なお、伊豆支部、伊豆の国支部、函南支部、沼津支部、その他の支部設立については次の第8期幹事に期待したい。

6. OB会記念資料館設立

当面は継続的な課題として議論を深めて欲しいと思います。ただ議論を深めるにもある程度の資料館の構想（たたき台）がないと前へ進めない。問題は資料館である以上当社100年の歴史を振り返るのに一番重要な製品開発のプロセスで当社製品を絵では画けるが実物が保管されていないことがもっとも重要な課題になるのではないかと思います。

7. その他の活動

(1) 広報誌「OB会だより」の充実

全国各地に在住する会員相互の絆を結ぶ重要な手段であるとの認識の上に、年4回発行の目標を設定しましたが現実的問題として予算上の制約もあり年3回に計画を変更せざるを得ませんでした。

平成20年度	No.11号	H20-2-15	発行
	No.12号	H20-5-30	〃
	No.13号	H20-8-31	〃
平成21年度	No.14号	H20-12-15	発行
	No.15号	H21-3-31	〃
	No.16号	H21-7-10	〃
平成22年度	No.17号	H21-12-15	発行

(2) 各種イベントについて

2-1. 同好会の設立

趣味を同じくする会員相互が協力して企画から実行までを担当する同好会の設立活動を進めた結果最初に囲碁同好会がスタート致しました。メンバー及び会則は次のとおり。興味のある方の参加を期待します。

メンバー 東京地区幹事：小倉清彦

静岡地区幹事：植木功夫

囲碁ルール 点数方式を採用し、初心者にも親しみやすい囲碁とした。

初段・200点とし1段（級）ごとに12点加算する方式を採用し勝敗ごとに1点加減をする。

尚、ゴルフ同好会、写真、陶芸、ウォーキング、書道、絵画等々、会員の皆様、手を上げて同好会づくりをお願い致します。

2-2. 平成21年度各種イベント報告

《東京地区囲碁同好会春季大会》

開催日：2009年4月25日(土) 場 所：市ヶ谷日本棋院2F 参加人数：12名

東京地区の囲碁狂の猛者12名が参加して熱戦が繰り広げられました。

当日は点数制ハンディに基き予選リーグ(3人一組×4)

3回戦、決勝リーグ2回を行ないました。

《優勝》 小松敏彦さん

《2位》 小倉清彦さん

《3位》 小山内建紀さん

久し振りの対局で和気あいあいで、楽しい一日を過ごす事が出来ました。



《静岡地区春季囲碁大会》

開催日：2009年6月11日(木)

場 所：東芝テック三島事業所 伊豆体育館2F

参加人数：9名

ランダムに対戦一人5～4回対局し交流を深めました。

高成績者：3勝1敗…溝上清三さんと本間日出男さん

注) 静岡地区大会は優勝・2位・3位を決めるトーナメント方式ではなく、あくまで対局回数を増やす方式を採用しています。



《第7回東芝テックOB会囲碁基本大会》

開催日：2009年10月1日(木)

場 所：東芝テック三島事業所 伊豆体育館2F

参加人数：東京地区 8名 静岡地区 8名 計16名

《優勝》 小松敏彦さん

《2位》 鍋島範起さん

《3位》 渡辺秋雄さん

注) 前々回より「点数方式」を採用しています。

◎組み合わせは各チーム東京地区2名・静岡地区2名になるように籤を作成しA・B・C・Dの4チームに分け、各チーム総当たり3回戦行い1位を決め、各チームの第一位者によりトーナメント方式で決勝戦を行いました。



《第12回首都圏ファミリーウォーキング》

～横浜港北の古民家横溝屋敷と三ッ池公園ウォーキング～

開催日：2009年5月13日(水) 参加者：14名(案内人：及川さん、伊東さん、庄司さん)

トレッサ横浜前に集合して、みその公園「横溝屋敷」から三ッ池公園までのコースを歩きました。

横溝屋敷は横浜市の文化財の第一号に指定されています。その中には天保時代の農村生活の資料が展示されており昔をしのぶことができました。

三ッ池公園は名前の由来にもなっている3つの池と豊かな木立が囲まれ、この緑の中は都会にいるのを忘れさせる所でした。

最後に鶴見駅前の総持寺で石原裕次郎の墓参りをして解散しました。



横溝屋敷前で記念撮影



韓国庭園で矢投げをする参加者

《第13回首都圏ファミリーウォーキング》

～旧江戸東京散歩・第一弾～江戸城の面影をめぐる歴史ウォーキング～

開催日：2009年10月20日(火) 参加者：24名（案内人：鎌田芳郎さん）

快晴のもと皇居周辺のウォーキングで楽しい一日を過ごしました。

コースは 和田倉橋門跡～平将門塚（姫路藩・酒井家上屋敷跡）～一ツ橋徳川家屋敷跡（十五代将軍・徳川慶喜）～平川門（皇居東御苑＝旧江戸城）～二の丸庭園（小堀遠州の造園）…（昼食・休憩）～百人番所～富士見櫓～松の廊下跡～天守閣跡～北桔橋門～旧近衛師団司令部（近代美術工芸館）～吉田茂像（北の丸公園）～清水門～田安門～大山巖大将（公爵）像～大村益次郎像～靖国神社～遊就館（ゼロ戦見学）で約3時間のウォーキングでした。



皆さんそろって記念撮影



平川門前の橋を渡る参加者の皆さん

《第6回親善オープンゴルフ大会》

2009年5月29日(金)大秦野CCにて予定しておりましたが、雨天中止となりました。

《第7回 ウィナーズゴルフ大会》

開催日：2009年11月9日(月) 天候 晴れ

場 所：静岡県 富士エースゴルフ倶楽部

参加者：22名

秋晴れの中、富士山をバックに、また田方平野を見下ろして、第7回「東芝テックOB会 ウィナーズゴルフ大会」が開催されました。選手は、各地区で所属しているゴルフの会からの代表で、13団体から22人の参加でした。

《優勝》柴田和暁さん（2年ぶり2回目）

《準優勝》菊池康雄さん（ベスグロ賞も獲得）

《3位》永井准四郎さん

プレイ終了後、パーティーで、表彰式、談笑し、来年の再会を約して解散しました。

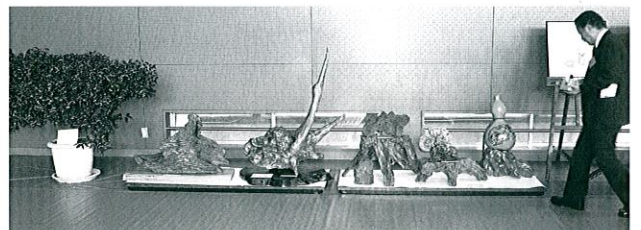


～「創作展」と「野菜即売会」～

「OB会総会」開催会場にてOB会員により「創作展」と「野菜即売会」が行なわれました。

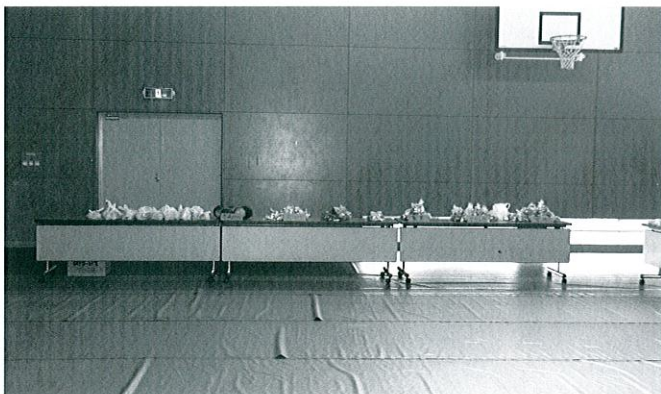
《創作展に出品いただいた会員の方々》(敬称略)

氏名	作品	作品名等
小泉奈津子	写真、書	
土屋 守	写真	1.「朝顔」 2.「美瑛」
関口重男	写真	1.「湖畔」(榛名湖) 2.「街角」(イタリア・シエナ) 3.「夏の日射し」(恵比寿・ガーデンプレイス)
片岡光夫	絵画	1.「狩野川と富士」 2.「野尻川」
下山 正	竹細工	風車、虫類、トンボ…他
下村精鋭	流木、石等置物	
山田伸一	油絵	1.「ドライブフラワー」 2.「郡上八幡の春」
西澤公久	陶磁器	家、花器、粉引茶碗
土屋孝一	絵	



《野菜即売会にご協力いただいた会員の方々》(敬称略)

氏名	菜園規模	提供野菜
土屋 孝一	約150坪	秋ウコン(粉)10袋、分葱5袋、唐がらし8袋、キクイモ5袋、紅大根3袋、はやと瓜3袋
梶山 欽也	約1000坪	サツマイモ5袋、里芋3袋、ヤーコン6袋、お米18袋、ネギ5袋、大生姜9袋、甘柿13袋、渋ぬき柿13袋、冬瓜5袋
下村 精鋭		柚子22袋



ご協力いただいた皆様、素敵なお作品、美味しそうな野菜をありがとうございました!



会員の広場

たそがれ爺さんの気まぐれ生活

～松井 勲さん～

東芝テックを定年退職したとき、何でも手を出してみようと考えていたところ、高等学校でパソコンの補習授業、面接練習などの進路指導を行っておられる方の紹介で静岡県教育委員会の「多様な人材活用学習支援事業」の時間講師として裾野高等学校を手伝うことになり今年で4年目になります。

仕事内容は進路指導課の先生のお手伝いをするのが役目です。

2年生は2月、3年生は6月から10月までが進路指導の時期です。高校の先生も大変忙しく生徒の個別指導までなかなか手が回らない状況です。

生徒は夫々純粋ですから話しているところの心が洗われるようで、すがすがしい気持ちにさせられます。また、外部の人の話は真面目に聞いてくれます。ほとんどの生徒は真面目に高校生活を送っていますが、中にははみ出した生徒も居ります。昨年も父親が癌で無くなり急遽就職に転向し、全くやる気をなくした生徒がいましたが、何回か話をしていくうちに、急に前向きになり立派

な会社に就職が決まったことがありました。

こういうときは本当に遣り甲斐を感じ、昔会社で新製品を開発したときの達成感と似たものがあります。

二つ目は、浜松工業会沼津支部という会があり、副支部長だった西川さんが急逝され、その時支部長だった鈴木寛さんから一寸手伝えとのことでお手伝いをしていたら遂に支部長を引き受ける羽目になってしまいました。

三つ目は、以前町内の会計を依頼され、会計か会長は一度やればお役御免ということでしたので、一度は地域のお役に立とうと思いき受けましたが、今年4月から誰もが嫌がる町内会長まで押しつけられてしまいました。

いずれも軽い気持ちでお手伝いをしているうちに泥沼に入り込んでしまって、今では場当たりの行動を反省しています。これらの三つの役目が終わり70歳になったら全てのことをお断りして、自分の趣味に本格的に没頭して自分の人生を充実させたいと考えています。

私の近況報告

～谷山幸男さん～

私が会社を退職したのは平成6年4月1日で、今から15年前である。その頃はバブル崩壊の時に、会社の存続が懸念され当社も数百人が一斉に会社を去った。

私の一日のスタートはラジオ体操に始まり、胸いっぱい澄んだ空気を吸いながらの早朝散歩となる。散歩の帰り道、菜園の作物（スイカ、メロン、マクワウリ、カボチャ等）の受粉を行い、帰宅して朝食を取る。

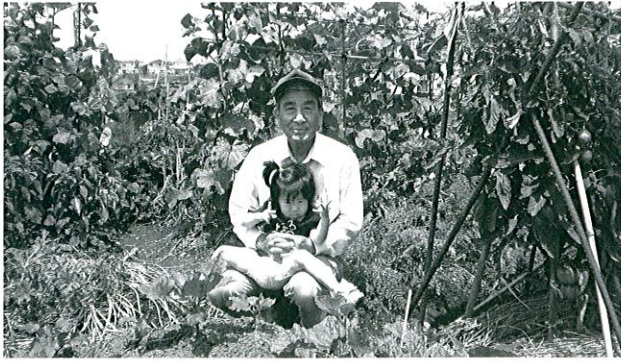
現在の健康状態は特に悪いところもなく、3度の食事もおいしく戴いているので大変ありがたい感謝している。

私の趣味は有機農法、無農薬の家庭菜園（約60

坪、歴約40年）で、今年は約30種類の夏野菜を栽培し雨以外の日は毎日半日は畑仕事をしている。

他に週に2回、市の公民館で囲碁教室の仲間と囲碁を楽しんでいる。更に週に1回、県の健康センターで太極拳の訓練で体のリフレッシュを行っている。

私の家庭菜園の実態を披露させて戴きたい。まず肥料は自前の堆肥が主で、年2回作成している。材料は落ち葉、稲藁、茅、米ぬか、鶏糞、油粕、野菜屑等を混ぜて、約2ヶ月かけて熟成作成させる。追肥用は別に2種類を作成する。石灰はほうれん草以外は使わない。また、農薬は全く使わない無農薬農法を志している。また、野菜の苗



もほとんど自作で、自分の気に入った苗作りも私の自慢である。

野菜作りをして、すばらしいと思えるのは、第一に毎日の食事が美味しく戴けること。第二は毎日畑に行くのが楽しく、毎日の成長が気持ちをわくわくさせてくれる。第三はすばらしい環境で仕

事が出来る。緑に囲まれ、そよ風に触れ、小鳥のさえずりを聞き、心地よい汗をかきながらの仕事である。第四に孫たちとのスキンシップが図られる。初夏にはジャガイモ掘り、玉ねぎの収穫を内孫、外孫を入れて収穫祭を行う。また、秋には、薩摩芋、里芋の収穫祭を行い、夜は家族全員でご馳走を戴くことにしている。

第五に、自分の家で余った野菜は隣近所にお裾分けして喜ばれている。等である。

今、ブドウと椎茸の栽培に挑戦中である。

これからも働き過ぎないように、第一に健康を目途に置きながら、囲碁も楽しみつつ、野菜作りを続けたいと思う。

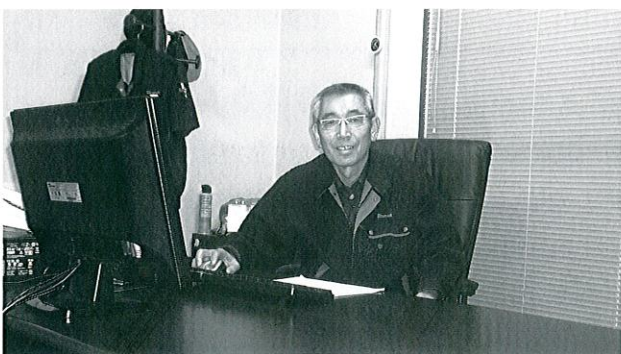
最後に皆様方のご健勝を心からお祈り致します。

起業家紹介

☆ No.6 ☆

「人は財産」こだわりは「モノ作り」

株式会社ヒューマン・エンジニアリングを創設 北條 安氏



2002年に東芝テックを退社後、知人のソフトウェア会社の取締役を務め、2004年に資本金300万で有限会社ヒューマン・エンジニアリングを設立。

当初は、私財を投ずるなど前途に不安を抱えた船出でしたが、その後ソフトウェアの受託開発を主体に順調な発展をとげ、現在は資本金1000万、年商約2億円、総勢22名の立派な会社へと成長しました。

しかし、昨年のリーマンショック以降の経済悪

化は、当社の経営に多大な影響を及ぼしました。超低金利の公的融資など資金繰りにいち早く手を回すなど不況を切り抜ける算段に奔走し、この11月頃からは仕事量が回復しトンネルの先の明かりがやっと見え始めた模様です。

東芝テック在職中は、FAX技術部に席を置いていました。ご本人は機械工学部の出身ですが、意思に反するソフトウェア開発を担当する事になりました。その間、要素技術は兎も角として、FAXとは商品性の異なるJALのBPP（ボーディング・パス・プリンタ）に従事したことは、思い出深い開発のひとつでした。M社との共同開発による商品でしたが、主導権を取ろうとするM社に対し、テックのスタンスを先頭切って堂々と主張したということです。当時の関係者の間でも、彼の決断力、バイタリテイ、強い個性を示す逸話として伝えられています。

もう一つの思い出は、東芝日野工場FAX部隊との技術移管です。他部門が統合化、融合化に難色を示す中で、彼をリーダーとするソフトウェアグループは統合化を短期間に成功させ、日野、テック双方の良い思い出となっています。BPPの開発、日野工場との技術移管について、技術云々もさる事ながら、彼が最も大切にしたのは人間関係、個性の尊重にあったようです。退職後も当時の人達との長いお付き合いが続いているのも、この所以にあると思われまます。

起業後の会社のモットー「人は財産」、社名の「ヒューマン」に、この大切にしている理念が織り込まれているような気がします。

ところで、この一年の厳しい不況により、苦しい経営を余儀なくされましたが、一方、彼の経営感覚は、会社の体質を強化する方向に向けられました。

即ち、受託開発だけに依存するのではなく、独自に販売する商品の開発に着手する事がありました。

- * 「小グループで緊急連絡等に便利な
簡単携帯メールシステム…ドラム缶」
- * 「新しい販促ツール…販促媒体として使用されている、ポケットティッシュではありません!!
替わりに自己を守ってくれるマスクはいかがでしょう?」
- * 「三島観光協会などで採用されている…マルチ言語（英語、中国語、韓国語など）
によるホームページ+パンフレットの制作は同一情報のメリットを生かしたコスト削減提案です。



マルチ言語によるホームページ制作は静岡県の“経営革新計画”で当時の石川知事に承認を受け現在ではポータルサイトとしてのビジネスも展開しています。

このような企画と即実行は不況をチャンスに変えて飛び上がろうとする彼の行動力の現れです。いずれもOB会ホームページに掲載することを検討しています。

基本的には仕事人間でしょうが、余暇はエアガン、バイクツアー、ゴルフなど幅広い趣味に興じています。

最後に、経営者の資質について「大企業の中で日常不断に醸成されたトータルマネジメント力と培った人間関係は、小規模企業の経営においては大変貴重なものであり大切にしなければならない。」と述べられた事が印象に残りました。

OB会の皆様、このヒューマンエンジニアリングへのご支援を宜しくお願い申し上げます。

また経営者としての資質が備わっているOBの皆様、現役世代の負担をいくらかでも軽減すべく積極的に起業を指向し、高齢化の日本社会を変革する潮流を作りたいものです。

株式会社ヒューマン・エンジニアリング

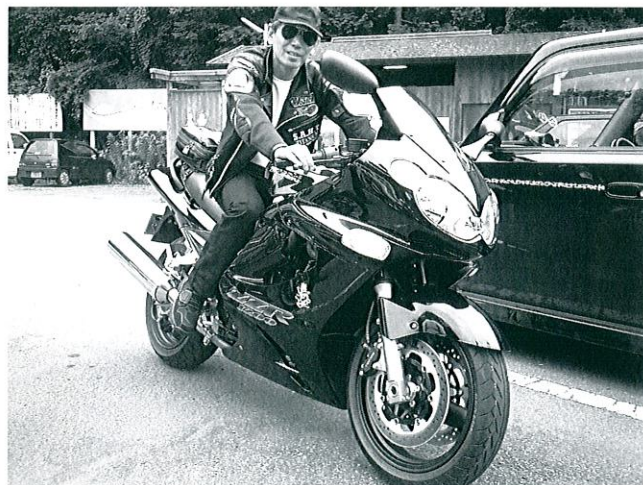
住所：〒411-0835

静岡県三島市玉川325-2 ICCビル2階

TEL：055-983-3877

FAX：055-983-3870 / 055-928-5870

(記) 常任幹事 松永秀隆



IJヘッド事業推進部の近況

東芝テック株式会社 IJヘッド事業推進部長 麻生伸一

OBの皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

当IJヘッド事業推進部は2001年4月、それまで研究・開発を行ってきた産業用・工業用印刷分野向けインクジェット（以下IJ）ヘッドを販売する目的で、現在のDS本の1部門としてスタートしました。その後2006年10月には事業推進部という形で独立し、今日まで独自の事業展開を図ってまいりました。現在、製造・営業・技術・品証が三島事業所に集結して執務しております。

東芝テックの事業分野では、ほとんど未参入であった産業用・工業用印刷分野へ参入した当初は、業界の右も左もわからず、当時この事業に関係されたOBの方々の人脈やご経験をフルに活用させていただき販売活動を行ったことが思い出されます。その結果徐々に販路を広げ、おかげさまで国内外20社近くの著名な企業でご採用いただいております。またこの分野は多くのアプリケーションが存在しておりますので、近年の技術・品質向上もあって、この技術の可能性に注目した企業から多くの新しい商談が舞い込んできています。2009年6月には、事業開始から累計販売個数100万個を達成するまでに成長しました。今までのご支援や励ましをいただきました多くのOBの皆様には心より感謝申し上げます。

研究開発当初より一貫して高印字品質を目指してきた結果、当社IJヘッドを採用いただいた商品は、国内外の数々の展示会で高印字品質での賞を多数受賞されております。東芝テックのIJヘッドは世界一の印字品質である、というお声も頂戴できるようになりました。

初期のデザインを第一世代と定義すると、昨年には第二世代の商品を投入しました。IJヘッドの中をインクが循環する機構を採用し、異物や気泡

といった印字抜けの要因を自動回復し、さらに信頼性が向上しました。その機構のおかげで、従来メンテナンスとして廃棄していたインクも大幅に削減でき、環境面でも大幅な改善が達成できました。

とはいえ、昨今の世界的経済低迷の影響は当事業推進部にも押し寄せてきました。市場が冷えこみ、企業が投資を抑え、印刷装置の導入を手控えるという過程のなかで、インクジェットヘッドという1つの部品への影響は、経済危機が発覚してから3ヶ月後ぐらいに怒涛のごとく襲ってきました。その結果、09年上期には大幅に売上が落ちこみ事業としては非常に厳しい環境に立たされました。一部では経済回復の兆候を示す数字も発表されてきてはいますが、当事業推進部の商品はすぐにその効果が現れるというものではありませんので、厳しい環境を乗り越えるためにもコスト低減・構造改革を行い事業収益の回復に取り組んでいます。しかしながら、逆に不景気であるがゆえに経費削減、能率向上という流れからか、IJ技術が見直されているのも事実です。あるお客様の商品は不況だからこそ売れるという状況になってきました。またある印刷会社では、今までの印刷機を置き換えてでも効率のよいIJ方式の印刷装置に置き換える、という事例もでてきております。この不況をチャンスと捉えたいと考えております。まだまだ不透明な時代ですが、“世界一の印字品質”を維持し、産業用・工業用印刷分野での地位を確保すべく、精一杯事業発展に努めてまいります。

今後ともご指導・ご支援のほどよろしくご厚意申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。